

## 第2期 旭市の教育に関する大綱を策定

平成28年4月に策定した教育大綱が、令和2年3月をもって終了することから、総合教育会議で協議し、新たに「第2期旭市の教育に関する大綱」を策定しました。

今回は基本理念を中心に策定の概要を紹介します。

### 策定に関する会議の開催状況

第1回総合教育会議／令和元年10月31日

第2回総合教育会議／令和2年2月17日

### 第2期旭市の教育に関する大綱の概要

#### ●大綱の期間

令和2年度～令和6年度

#### ●基本理念

～旭に学び、育ち、旭を誇りに思うひとづくり～

現代は新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる分野での活動の基盤として飛躍的に重要性を増しています。

また家族形態、地域との関わりも大きく変わり、価値観やライフスタイルの多様化などが一段と進んでいます。このような変化の激しい時代を担う子どもたちに必要な能力こそが「生きる力」です。「生きる力」の3つの要素である確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てる教育が、将来を担う子どもたちにとって必要です。

旭市は豊かな自然の恵み、地域に受け継がれる歴史・文化・伝統、そして、多くの先人のたゆめぬ努力によって築かれたまちです。これらの財産や可能性を、将来にわたってさらに生かしていく必要があります。この素晴らしい郷土に生まれ、育ち、教育を受ける全ての子どもたちに、ふるさと旭を愛し、誇りに思うことができる教育を進めることが大切です。

また市民が生涯学習やスポーツ等を通じて、心身の健康や生きがいを感じることが出来る環境を整え、人と地域の交流につながるまちづくりを進めます。

そして旭で学んだ子どもたちが、未来の旭を担ってくれることを、さらにわが国の発展に貢献し、世界に向けてはばたいてくれることを期待し、5つの重点目標を定めて教育活動を推進します。

#### ●重点目標

- (1) ふるさと旭に誇りをもち、郷土と世界に目を向けてはばたく人を育みます
- (2) 社会の変化に対応できる確かな学力と生涯にわたり自ら学ぶ姿勢を身に付けた人を育みます
- (3) 豊かな人間性や道徳心をもった思いやりのある人を育みます
- (4) 健やかでたくましく活力あふれる人を育みます
- (5) 学校、家庭、地域が一体となり、まち全体で子どもたちを守り育てる体制づくりを進めます

※大綱の全文は、市ホームページで見ることができます。

### あさひ輝いた人々 第20回

## 旭中央病院創立の 功労者

鈴木 三九一 (1884～1970年)



鈴木三九一は旭町と嚶鳴村の一部、矢指村、富浦村、豊畑村、共和村の5村を合併し、旧旭市を誕生させたほか、旭中央病院の開設に力を尽くしました。今の旭市の礎を築いた人といえます。

明治17(1884)年に生まれ、旭町議会議員を経て昭和22(1947)年に旭町長に就任しました。昭和29(1954)年には市制施行を成し遂げ、初代の旭市長となりました。

三九一の最大の功績は、旭中央病院創立に努力したことが挙げられます。旭には大きな病院がなかったので、住民たちは大きなけがや重い病気の際には、遠くの病院まで行かなければなりません。三九一は近くの町村にも協力を呼び掛け、旭町をはじめ2町7村の町村

長を集め、国保病院を建設する同意を得ました。

しかし当時は大きな病院ができることを賛成する人ばかりではなく、さまざまな困難に遭いました。その困難を努力と誠意で乗り越え、昭和26(1951)年に旭病院組合を設立しました。三九一は初代管理者となり、病院開設に尽力しました。

最も大変だったのは院長と医師の確保でした。新しい病院をつくる大変さと、都会から離れた場所に来てくれる医師はなく苦労しましたが、ようやく千葉県知事などの助けにより東京大学の諸橋芳夫先生を紹介され、何度お願いした結果、引き受けてもらいました。

三九一の諦めない努力、諸橋芳夫院長の情熱、これらがなかったら旭中央病院はなく、この辺りは医療後進地域になっていたかもしれません。昭和45(1970)年にその功績によって、旧旭市名誉市民第1号になりました。



鈴木三九一(右)と横田清蔵(左)